

I. 平成30年度 第3回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成 31 年 1 月 17 日 (木) 清瀬市 清瀬けやきホール セミナーハウス

I. 平成30年度 第2回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨

平成30年度第2回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨が承認された。

II. 新河岸川流域川づくり連絡会活動協議事項

1. 前回議事の対応

- ・ 里川 87 号特集記事において、地名と水害リスクの関係を示すことができなかったため、今後の発行する記事にて取り扱うこととした。

2. 第14回 川でつながる発表会について

■決まったこと

- ・ 中止の連絡は、荒川下流河川事務所 Twitter で行う。大雨の場合は、発表会のみ実施する場合もある。

【発表会】

- ・ 発表者へのコメンテーターの担当は以下の通りとし、各機関 1~2 分程度の激励・感想をしていただく。
 - ・ 清瀬市立清明小学校：川づくり・清瀬の会
 - ・ 自由学園男子部高等科：東京都
 - ・ 清瀬市立第四中学校：清瀬市
 - ・ 所沢市立上山中学校：東大和市
 - ・ 法政大学水文地理学研究室：NPO 法人エコシティ志木
 - ・ 総括：新河岸川水系水環境連絡会

【交流会】

- ・ 展示パネルは、事前に事務局に連絡のうえ、郵送の場合 1/31 までに郵送する。当日持参も可能とする。
- ・ パネル展示を行う団体は、交流会時にはパネル前に待機し、必要に応じて説明を行う。

3. 里川88号について

■主な意見等

- ・ 里川 86・87 号で扱った台風への備えは、特集ではなく継続的に連絡会のテーマとして扱った方がよい。

■決まったこと

- ・ しんぶん里川は、HP 上に掲載している。今後、アップしたときに連絡会メーリングリストにて知らせる。
- ・ 3月中旬に開催されるカタクリ祭りの紹介が清瀬市からあり、イベント広報欄に掲載することとする。
- ・ 里川 88 号の特集テーマは、現地見学会コースを中心とした清瀬市の要所紹介とする。

III. 勉強会 (テーマ：新河岸川流域水循環マスタープランとの連携について)

■主な意見と回答

今年度策定される水循環系の健全化を目指す総合的な計画である新河岸川流域水循環マスタープランの説明と、今後連絡会として取り組む活動について意見交換を行った。

■主な意見など

(1) マイクロプラスチック問題について

- ・ マイクロプラスチックは、ゴミ問題として着目するべきではないか。水質や河川全体、流域全体の環境問題を掘り下げていきるとよい。
- ・ ゴミ拾い活動が、流域全体の環境を守ることに繋がってと分かってもらおうと効果的と思われる。
⇒マイクロプラスチックなどのテーマで勉強会を開催し、一緒に理解を深めていきたい。(事務局)

(2) 野火止用水や湧水地について

- ・ 野火止用水や流域の湧水地をどのように扱うかを議論していきたい。

(3) 瀬切れについて

- ・ 狭山丘陵を水源とする川は、開発により瀬切れが起こりやすくなっているように思える。健全な水循環とはどのような状況かを検討していきたい。
- ・ 治水と生態系保全について、行政と考え方を共有していきたい。自分が活動している地域では、トンボの生息域が治水事業で失われていくなどの課題があり、生態系を踏まえた治水対策が必要であると思う。
- ・ 砂川堀の特殊性などは、地元住民に対してもあまり知られていない状況である。自然とどのよう付き合っていくべきかの情報発信がないことも課題である。
- ・ 空堀川の水管理は、魚などの生態系の影響や気候変化に伴う治水対策の観点から、大規模な貯留施設設置を促すような取り組みも考えられる。
⇒瀬切れが発生しやすい河川における活動事例を紹介していければと思う。(事務局)

(4) 浸透施設の効果について

- ・ 浸透施設の効果など個別の施策を見極めることが重要である。

(5) 情報発信 (SNS を利用した情報共有) について

- ・ 情報の発信は、「しんぶん里川」だけではなくインターネットを活用した広報を検討し、市民が誰でもアプローチできるようにするとともに、市民の意見などをうまく発信できる方法を検討してほしい。

IV. その他

- ・ 次回連絡会は3月上旬に、清瀬市内の公共施設で開催する予定とする。